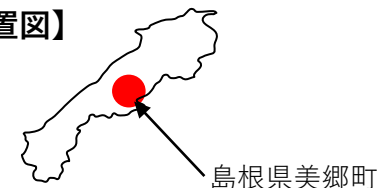


「魅力ある農業」の確立と就農研修施設の整備による担い手育成

- 町内農業における課題に対し、町の強みを活かした「**魅力ある農業※**」の確立を目指す。
※”脱炭素”を取り入れることで高い収益性を可能とする施設園芸モデル
- 町営リースハウスでの**ミニトマト**就農に向け、実践的な研修施設の整備と研修制度を創設。
- 上記取組に**共感する人材を町外から受入れ**。先進的な事例として官民が注目。

【位置図】



取組前

- 基幹的農業従事者数の長期減少傾向に歯止めがかからず、担い手減少と耕作放棄地増加が深刻化。
- 耕作放棄地の受け皿となっている集落営農組織の高齢化が進み、農地維持が困難になる懸念。
- 就農地としての魅力を高めるため、美郷町の強み（脱炭素による地域課題解決のエコシステム）を活かした「魅力ある農業」の確立が急務であった。

取組内容

- 農業研修施設の整備
研修用ハウス1棟（360㎡）、選果場（137.84㎡）等を整備。
- 就農研修制度の創設
2年間の研修期間において、1年目は**夏秋作ミニトマト**栽培の研修を実施。
- 「魅力ある農業」の確立
”脱炭素”（再生可能エネルギーやヒートポンプの活用など）を取り入れた収益性の高い農業モデルの確立と栽培技術の習得を目指す。

取組後(成果)

- 令和7年4月に第1期農業研修生3名、令和8年4月に第2期農業研修生3名を受入。現在6名の受入を行っている。
- 研修生と研修生の家族を含め9名が美郷町へ移住。
- 行政機関や民間企業から48組 242人の視察受入を行った。（令和7年度末現在）



農業研修施設「みさと。トレーニングファーム」

【サポート体制】



令和8年3月に産地化に向けた方向性を示す「産地ビジョン」を策定するとともに、「美郷町ミニトマト産地づくり協議会」を設立し、生産者の所得向上を目指す。

新規就農者や研修生の声

- 「就農時と同じ栽培方法や栽培設備のため、より実践的な感覚で研修を受けることができ、大変満足している。」
- 「施設内での充実した研修に加え、先輩農家ででの研修や農林大学校での座学があり、いろいろな方々の知識や技術を知ることができる。」

サポート体制構築事業 活用年度：令和6年度

【問合せ先】美郷町産業振興課 アグリ事業開発室

TEL:0855-75-1214

E-mail: zerocarbon@town.misato.shimane.jp

HP: <https://www.shimanemisato.com/zerocarbonagri>